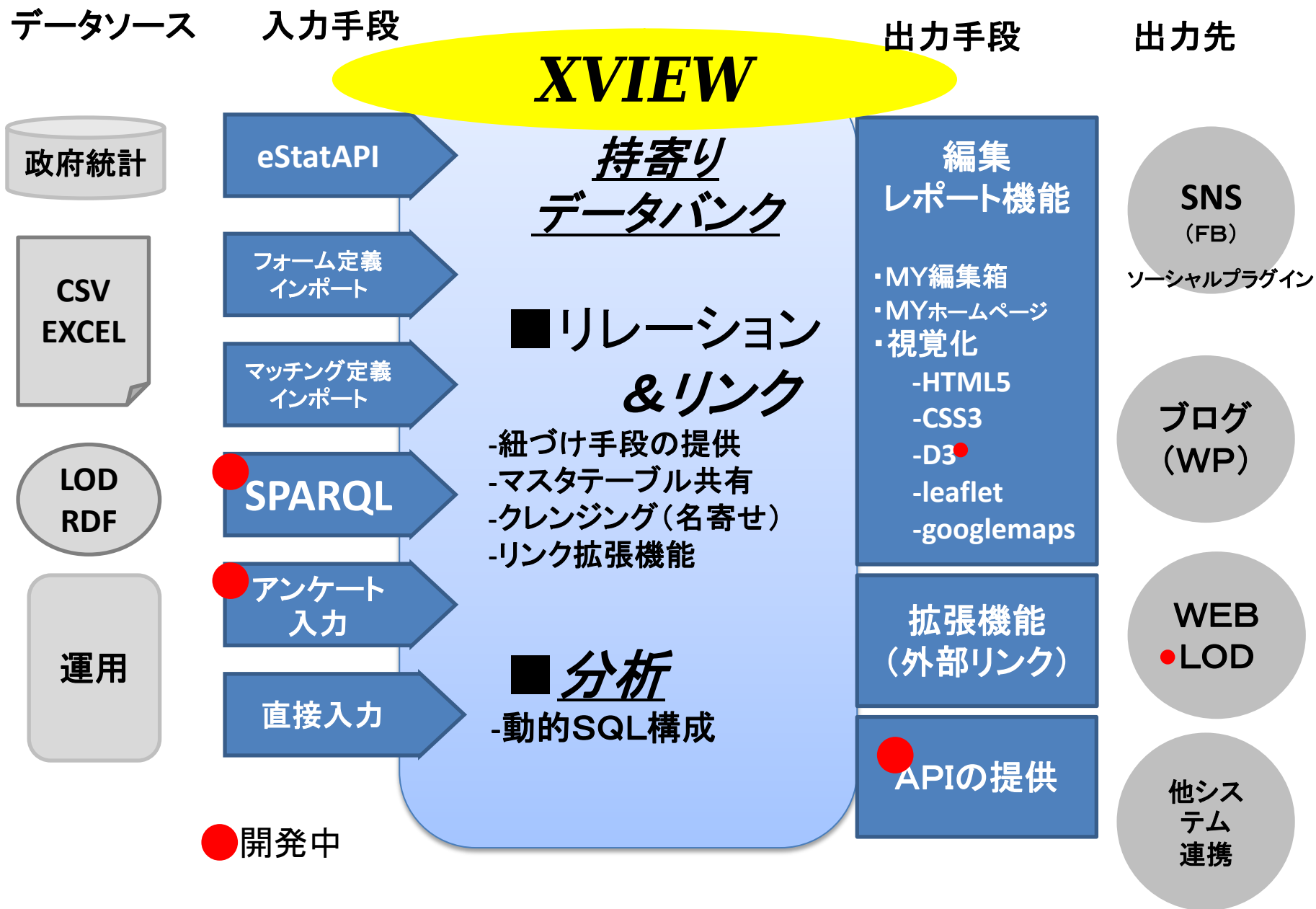


XViewを理解するために

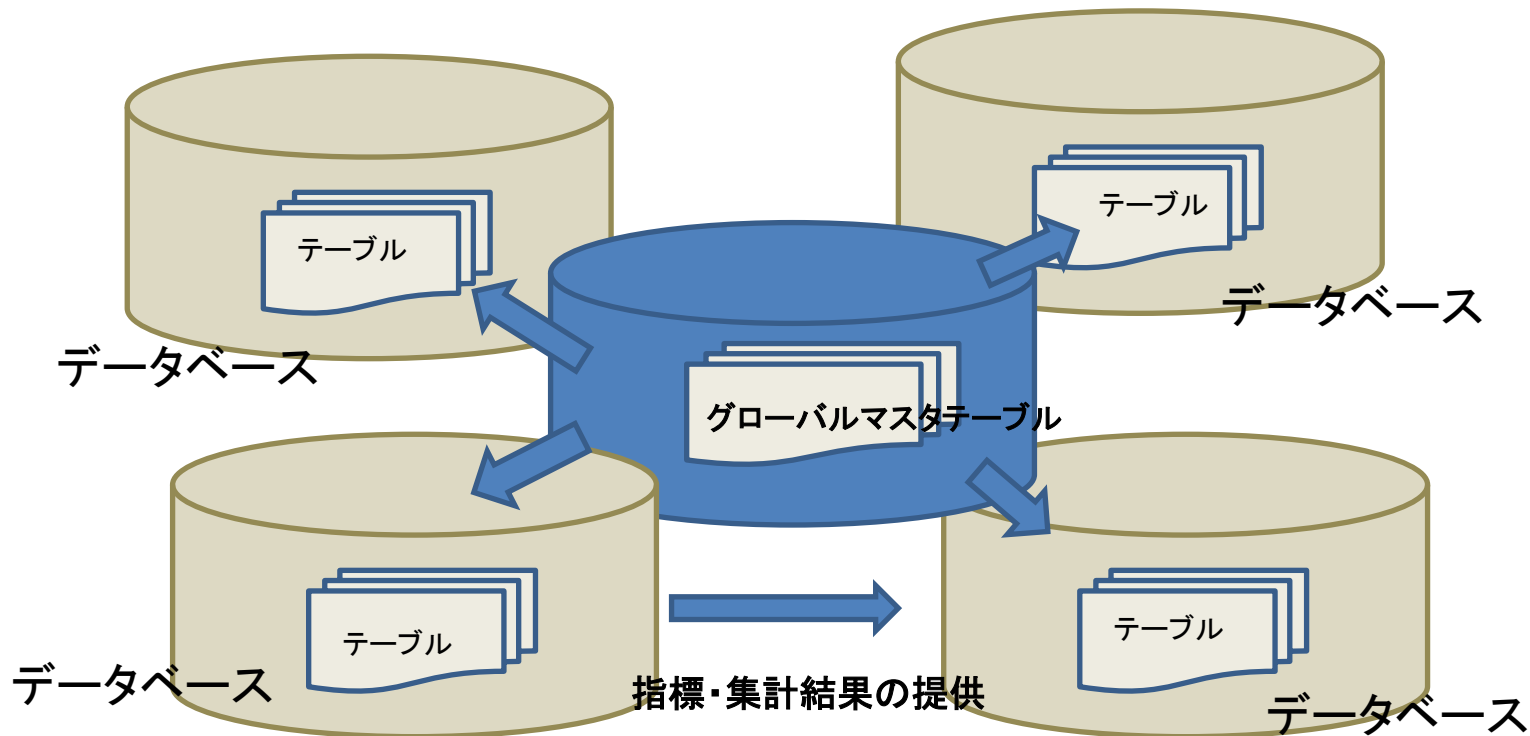
- ・データベースに関する基礎的なこと
- ・オープンデータを扱う上でのXViewの特徴
- ・用語の定義

クロスビューシステムズ 花谷修一

構成要素



持寄りデータバンク(XViewDB)の構成



- 複数のデータベースの集合からなる**RDBMSシステム**
- 一つのデータベースは複数の**テーブル**(表)からなる。
- コンテンツマスタにはテーマ毎に一つの**データベース**が割り当てられテーブルを管理し独自のデータを扱うことができ、これをユーザに提供することができます。
- ある特定の情報(指標・集計結果)をデータベース間でやり取りできます。
- 全体を管理するデータベースがあり、ここから特定のテーブル(**グローバルマスタテーブル**)を配信し必要に応じて利用することができます。
- このグローバルマスタテーブルの基に各データベースから情報を集めることができます。

情報のテーブル化について



生データ(ローデータ)
一件一葉からなる調査シートの情報

表化



行(レコード)

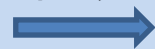
列(カラム)

氏名	住所	性別	血液型	意見
A	多摩市	男	A	賛成
B	日野市	女	B	反対
C	町田市	男	O	反対
.	.	.	.	.
.	.	.	.	.

生テーブル(カウントテーブル)

■生データ(ローデータ)を表にしたものを「生**テーブル**」と呼ぶ

■生テーブルは件数として数えるテーブルである。



カウントテーブル

■テーブルの列を「**カラム**」 行を「**レコード**」と呼ぶ

■列(カラム)の一つ一つの項目を「**フィールド(項目)**」と呼ぶ

一般に生テーブルは公開されません。→オープンデータとして公開されるのは稀。

統計表(統計テーブル)について



ディメンジョン			ファクト
住所	性別	意見	人数(人)
多摩市	男	賛成	5
日野市	女	反対	8
町田市	男	反対	12
・	・	どちらでもない	・
・	・	わからない	・

■統計表(統計テーブル)

生テーブルから有意なフィールド(**ディメンジョン**:集計項目)だけ抜き出して集計したもの。その集計値を**ファクト**と呼ぶ。

■オープンデータは主に本統計表でありXViewは本統計テーブルを処理の対象とする。ただしカウントテーブルを扱わないわけではない。

■集計値「ファクト」は単位を有する。(人、円、件……)等

■XViewDBでは一つの統計テーブルには原則としてファクトは一つとする。

■ディメンジョンの数が多いほど粒度の細かいテーブルといい、多くの情報が含まれ必然的に大きなテーブルになるが多様な分析ができる。一方ディメンジョンの数が少ないテーブルは粒度の粗いテーブルであって情報量が少なくテーブルサイズは小さいが多様な分析はできない。

ピボット表について

ワークシート: 男

Xワークシート: 調査年

住所	賛成	反対	どちらでもない	わからない
多摩市	5	5	2	3
日野市	3	3	3	2
町田市	4	2	4	1
.	.	.	.	.

ワークシート: 女

住所	賛成	反対	どちらでもない	わからない
多摩市	8	3	2	2
日野市	5	3	1	2
町田市	4	5	1	1
.	.	.	.	.

A: 複数のワークシートで表現した例

Xワークシート: 調査年

性別	住所	賛成	反対	どちらでもない	わからない
男	多摩市	5	5	2	3
	日野市	3	3	3	2
	町田市	4	2	4	1
	.	.	.	.	.
女	多摩市	8	3	2	2
	日野市	5	3	1	2
	町田市	4	5	1	1
	.	.	.	.	.

B: 複数のディメンジョンを列に配置した例

Xワークシート: 調査年

	男				女			
	賛成	反対	どちらでもない	わからない	賛成	反対	どちらでもない	わからない
多摩市	5	5	2	3	8	3	2	2
日野市	3	3	3	2	5	3	1	2
町田市	4	2	4	1	4	5	1	1
.	.	.	.	.	.	.	.	.

C: 複数のディメンジョンを行に配置した例

■ピボット表

ディメンジョンを行と列に配置してファクト(集計値)をセルに記載する方法

■統計表のひとつの表現手段である。

■多くのオープンデータはEXCEL CSVによる複数枚のワークシートのピボット表で提供される。

XView集計画面

■ピボット表で与えられたEXCEL,CSVの統計表をワークシート分インポートして蓄積し、多次元の統計テーブルにしてこれに**計算処理**を施し 行・列のディメンジョンを任意に切り替えられるようにしたピボット表である。

注) eStatAPIで提供されるデータは統計表で提供される。

決算事業報告書

絞込条件:

条件解除

ページ登録

グラフ登録

指標リスト

CSVダウンロード

いいね!

シェア

友達よりも先に「いいね!」しましょう。

対象期間(年次) 2011 ~ 2015

[単位:]

行級リ	款	2011	2012	2013	2014	2015	合計 h	縦	年次
項番	指定なし								指定なし
1	☐ 議会費	465,153	400,354	378,819	387,158	407,469	2,038,953		年次
2	☐ 総務費	970,986	7,314,291	7,374,584	8,104,947	8,299,875	38,064,683		事業名
3	☐ 民生費	004,226	22,095,822	22,873,870	24,153,300	25,150,532	116,277,750		款・項・目
4	☐ 衛生費	637,898	3,733,386	3,805,820	3,860,695	3,749,707	18,787,506		款・項
5	☐ 労働費	19,198	19,267	19,906	21,583	26,485	106,439		款・項
6	☐ 農林業費	62,820	58,408	56,724	61,240	64,357	303,549		款
7	☐ 商工費	566,847	519,424	481,369	541,799	490,409	2,599,848	☐	
8	☐ 土木費	2,950,782	3,258,823	3,304,992	3,159,549	3,811,075	16,485,221	☐	
9	☐ 消防費	1,813,416	1,791,092	1,781,551	1,843,112	1,918,722	9,147,893	☐	
10	☐ 教育費	6,710,056	6,681,377	7,627,759	6,276,011	8,499,272	35,794,475	☐	
11	☐ 災害復旧費	38,686	0	0	0	0	38,686	☐	
12	☐ 公債費	2,833,252	2,713,304	2,620,571	2,491,607	2,105,097	12,763,831	☐	
☐	合計 h	48,073,320	48,585,548	50,325,965	50,901,001	54,523,000	252,408,834	☐	
								total	戻る

■XViewは 本画面の各種の操作に応じて動的に**SQL**を発行しデータベースから都度 集計計算をして集計値を求めています。

SQLの内容は表示設定・デバッグモードで確認することができる。(アクセス権要)

テーブル構造の表現方法について

■エンティティ表

統計テーブルの全体の構造を把握するために テーブルの構造だけを下記のように記述したもの

■XViewではこれをテーブル定義として利用する。

テーブル名: * * * *

フィールド項目	データ型	他の属性
住所	文字型	
性別	文字型	
意見	文字型	
件数	数値	

他の属性

- ・インデックス
- ・ディメンジョン
- ・レベル
- ・アクセス権
- ・表示のための指定
- ・名寄せ(クレンジング)のための指定

詳細は後述

ファクトテーブルとマスタテーブル

- 曖昧さを排除するために以下のようなコードを導入します。
これをテーブル化して それぞれ下記のような名前をつけます。

標準地域コード	標準地域名
.	.
13212	日野市
13224	多摩市
13225	稲城市
.	.

標準地域コードマスタ

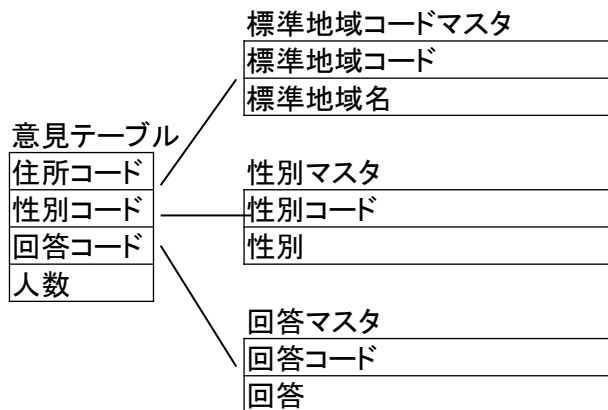
性別コード	性別
001	男
002	女

性別マスタ

回答コード	意見
A	賛成
B	反対
C	どちらでもない
D	わからない

回答マスタ

- 元の統計テーブル(意見テーブル)も上記のコード表のコードで置き換えて 上記コード表と結合します。
(**リレーション**を張る)。 その様子をエンティティ表で表す。



- 元の統計テーブル(意見テーブル)を**ファクトテーブル**と呼び統計表の実体テーブルのことを言います。
- コード表のテーブルを**マスタテーブル**と呼びます。マスタテーブルは頻繁に更新されるものではありません。
- 標準地域コードマスタや性別マスタのようにどの統計表にでも適用できるものを**グローバルマスタテーブル**という。
- コードは次項以降の「マスタテーブルの機能」に該当する場合に導入します。必須ではありません。
- 標準地域コードは政府統計で標準的に導入されたものですが どの統計表にも利用されている訳ではありません。
- 上記のファクトテーブルとマスタテーブルの結合状態を表す図を**ER図**と呼びます。

マスタテーブルの機能 その1

■集計項目(ディメンジョン)に対して階層レベルを定義できる。

階層(レベル)の例

- ・一般的括り 大区分=>中区分=>区分
- ・標準地域コードマスタ 都道府県=>市区町村
- ・会社組織 事業部=>部=>課=>係
- ・自治体決算項目 款=>項=>目

上記「一般的括りマスタテーブル」をエンティティ表で表現すると

フィールド名	ディメンジョン	レベル	インデックス
区分コード	LCODE		primary
区分	NAME	pp	primarynam
中区分コード	SCODE		
中区分	NAME	a1	
大区分コード	SCODE		
大区分	NAME	a2	

■マスタテーブルで定義された高位のレベルの大区分、中区分の括りでの集計を簡単に行うことができる。

■階層レベルによってドリルダウン表示を実現できる。

大区分の一つの指定から その指定のなかの中区分表示 中区分表示の一つからその指定のなかの区分表示

■絞込条件指定ができる。

ドリルダウン機能を複数のディメンジョンで組み合わせる。

全国の自治体決算状況報告テーブルから標準地域コードマスタの都道府県:東京都の指定と自治体財政区分の款:教育費に絞りこんで東京都の各市区の教育費に関する内訳の決算データを比較する。

ディメンジョン・レベル・インデックス

■ディメンジョン （集計項目）

テーブルのフィールド項目の内 集計項目の対象にするものを下記のように指定。

指定タイプ	内容	付与テーブル
SCODE	100以上のレコードを持つ項目ののコード部	マスタテーブルに指定
LCODE	100以上のレコードを持つ項目ののコード部	マスタテーブルに指定
NAME	コード部に対する名称部項目	マスタテーブルに指定
BOTH	行・列両用の集計項目	ファクトテーブルに指定
ROW	行だけに使用する集計項目	ファクトテーブルに指定
POINT	時点を表す集計項目	ファクトテーブルに指定
START	有効期間の開始を表す集計項目	ファクトテーブルに指定
END	有効期間の終了を表す集計項目	ファクトテーブルに指定

■レベル （階層の順序指定）

マスタテーブルのNAME部に粒度の細かい順に指定	pp,a1,a2,a3...
上記と別系統の階層が存在する場合	pp,b1,b2,b3...
ファクトテーブルのBOTH ROW部に付与	pn

■インデックス （索引）

primary	主キー
primarynam	主キーにたいする名称部
index	
unique	

マスタテーブルの機能 その2

- マスタテーブルの主キー項目には その固有の値(下記の例では単価)を設定してファクトテーブルの値(販売数)と計算処理を施すことができる。

販売データテーブル
(ファクトテーブル)

フィールド項目
商品コード
販売日
販売数

商品マスタ

フィールド項目	ディメンジョン	レベル	インデックス
商品コード	LCODE		primary
商品	NAME	pp	primarynam
商品区分コード	SCODE		
商品区分	NAME	a1	
単価			

- 上記から 計算処理(積和)を施して $\text{売上高} = \text{販売数} * \text{単価}$ を求め
販売日と商品毎あるいは商品区分毎の売上高のピボット表を作ることができる。

- * 計算処理: 資料「計算定義について」を参照
- * 日々の販売データのようなトランザクション(業務)に適用するときこのテーブルをトランザクションテーブルともいう。

マスタテーブルの機能 その3

- XViewでは2つのファクトテーブル間で計算処理を施すことができます。
マスタテーブルは、これをファクトテーブル間で共有することで配列計算を保証します。

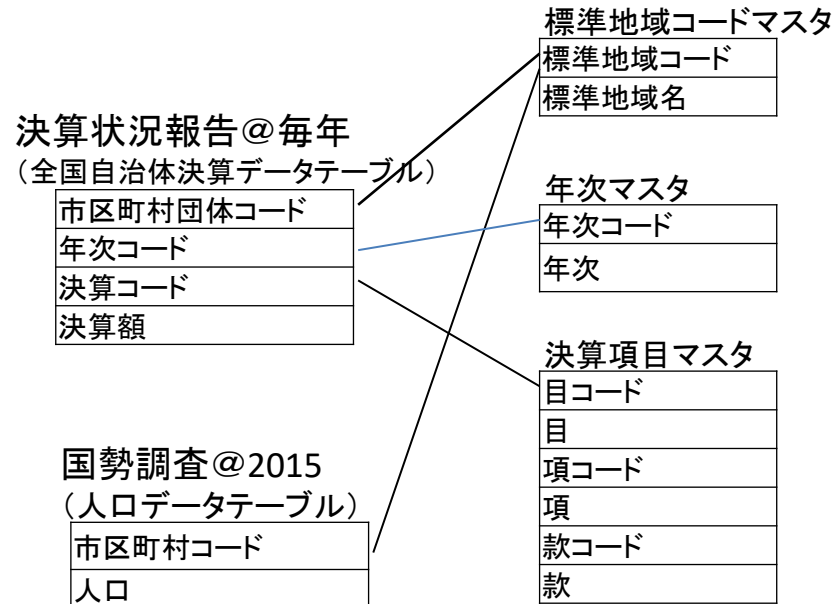
命題

決算状況報告から各自治体毎に人口一人当たりの決算額をそれぞれの決算項目毎に知りたい。



決算状況報告決算データを国勢調査の人口データで割ると仮定する。

ER図は右図



- 決算データの市区町村団体コードと人口データの市区町村コードはともに標準地域コードマスタの標準地域コードに結合している。標準地域コードマスタを決算データと人口データで共有している。
- 一方 決算データの決算コードは決算項目マスタの目コードに結合しているが人口データとは結合していない。
- 更に 決算データには年次コードが存在して毎年のデータがあり年次マスタと結合しているが人口データは特定の年度のものでしかなく年次マスタと結合していない。



標準地域名と決算項目(款・項・目)のピボット表を作成したとき標準地域名毎に決算項目の値が一律に人口で割られたた値(一人当たりの決算項目)が求められる。しかしそれは決算状況報告にあるすべての年次の合計の値であるため 正しくは人口データの年次のものを特定しなければならない。



また決算総額を標準地域名と年次のピボット表を作成したとき年次は人口データの年の値で一律に割っていることに注意しなければならない。



正しくは人口データにも毎年のデータを取得して年次マスタと結合しなければならない。

マスターテーブルの機能 その4

■その2やその3で計算した結果を共通のマスターテーブルの基に持ち寄ります。

共通の集計項目(ディメンジョン: ex標準地域コード)を定め、いろんなデータの計算処理を施した結果をこのマスターテーブル(標準地域コードマスタ)の基にを持ち寄ります。この様子をER図であらわす。

共有マスターテーブル

標準地域コード
標準地域名

標準地域コード
一人当たり教育費
一人当たり民生費
.
.

指標テーブル

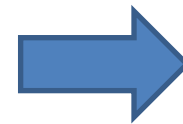
標準地域コード
商品Aの消費高
商品Bの消費高
.
.

標準地域コード
高齢化率
生産年齢人口率
.
.

標準地域コード
病気Aの罹患率
病気Bの罹患率
.
.

XView集計画面の計算結果(指標)をテーブル化したものを**集計テーブル**と呼び、これを共有マスターテーブルの基に寄せ集めたもの。

■指標を他のテーマに提供することもできます。



散布図で表すことができる。

地方公共団体財政指標(citymaster) [このページについて] [設定条件] 市などの別コード (1/2/3/4)															page 112	条件欄
行内	財政力指数	40	50	60	70	80	90	100	110	120	合計	h	経費収支比率	経費収支比率		
1	0			1	6	10	10									
2	0.1				2	54	127	43			1					
3	0.2				4	29	158	73								
4	0.3				1	19	133	90								
5	0.4					4	108	92								
6	0.5					12	88	78		1						
7	0.6					9	71	77		4						
8	0.7					4	75	93		2						
9	0.8				1	2	44	69		2						
10	0.9					5	44	93		2						
11	1				2	3	13	14								
12	1.1				2	3	6	2								
13	1.2				2	1	2									
14	1.3					1	2									
15	1.4				1	1	1	3		1						
16	1.5						1									
17	1.6															
18	1.7				1		1									
19	1.8															
20	1.9															
21	2															
合計	h	1	2	22	158	882	672	23	1	1	1740					

縦軸・横軸の指標を自在に切り替えられる散布図

指標間の相関性がわかる。

集計テーブル

マスタテーブルの機能 その5

■与えられたオープンデータは 必ずしも統一的なコードや語彙が使われているわけではありません。

従って、これまで述べたマスタテーブルの機能の利用に際してリレーションを張るためには統一的なコードに置き換える必要がある。

■XViewではマスタテーブル側に、一致をとるためのキーパターンをいくつか用意してマスタテーブルの主キーにコード変換します。さらには整形パターン(shaping_pattern)を用意し**名寄せ(クレンジング)**して主キー コードに変換します。

フィールド項目	ディメンジョン	インデックス	追加指定
主キーコード	LCODE	primary	
主キー名称	NAME	primarynam	
パターン1		unique	
パターン2		unique	shaping_pattern:dddsssss;

・与えられたオープンデータの項目をパターン1をキーにしてマスタテーブルの主キーコードに変換します。

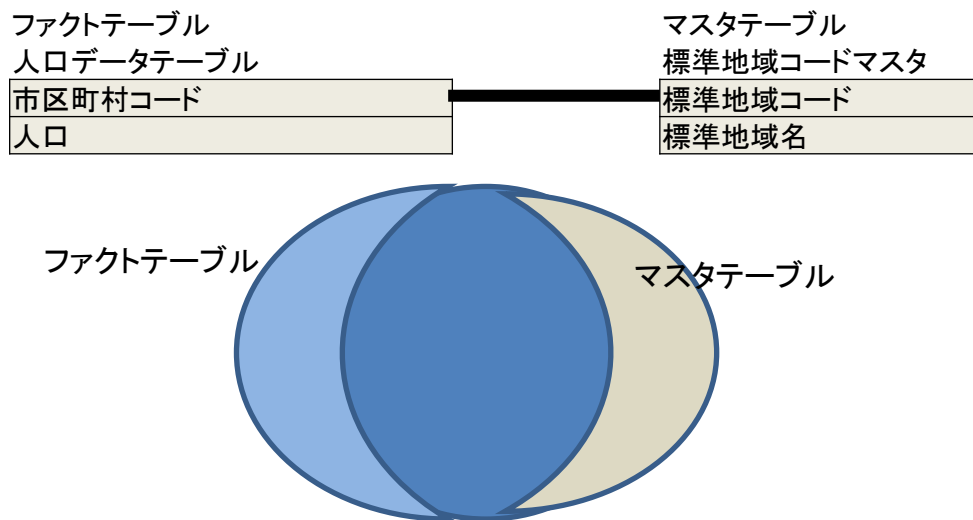
・与えられたオープンデータの項目をshaping_paternで整形してパターン2と一致をとりマスタテーブルの主キーコードに変換します。

Shaping_patternの詳細についてはXView内の[?](#) を参照

結合方式

■ 2つのテーブルの結合方式においてXViewでは下記の2つの方式を選択できる。

表記設定・テーブル間の結合設定



■ InnerJoin 結合 積集合

ファクトテーブルとマスタテーブルの共通の要素（標準地域コード）が採用される結合（濃い青の要素）

■ LeftJoin 結合

マスタテーブルの如何にかかわらずファクトテーブルのすべての要素が採用される。従って薄青の部分はマスタテーブルに要素がなくコードが存在しないことから「不明」と表示される。

■ デフォルトはLeftJoin方式である。

グローバルマスタテーブル

- 多くの統計表において共通に使用できると考えられるマスタテーブルを
グローバルマスタテーブルと呼び

XView =>「設定・メンテナンス」=>「データ取得とテーブル定義」
の最初の画面から必要に応じて取得でき テーマ間で共有できます。
XViewでは、今後これを拡充してまいります。

テーブル定義

フォーム定義インポート
マッチング定義インポート
政府統計(eStat)

NS テーブル名称 T

- ★ A1 公園面積
- ★ A2 公園箇所数
- ★ A3 公共住宅戸数
- ★ A4 児童福祉施設
- ★ A5 老人福祉施設箇所数
- ★ A6 施設箇所数
- A8 施設マスタ
- ★ A9 施設面積
- AA 年次マスタ
- AB 月次マスタ
- AC 四半期次マスタ
- AE 年次マスタ(文字)
- AG 年齢マスタ
- ★ B0 施設職員数
- ★ B1 診療施設箇所数
- ★ B2 診療施設病床数

テーブル構成表(エンティティ表)の表示

- ・ サイドバー内のテーブル名をクリックすることで表示できます。
- ・ データの取得については「画面機能説明」を一読の上「インポート」から実行してください。
- ・ 必要に応じて下記グローバルマスタテーブルをプラグインします。

グローバルマスタテーブル(よく使用するマスタテーブル)

NS	テーブル名称	和名	記事	運用版(登録日)	最新版(登録日)	
AA	yearmaster	年次マスタ		2016-07-28 00:00:00	2016-11-07 00:00:00	更新
AB	quatermaster	四半期次マスタ		2016-09-23 00:00:00	2016-09-23 00:00:00	設定済
AC	monthmaster	月次マスタ		2016-09-23 00:00:00	2016-09-23 00:00:00	設定済
AE	s_yearmaster	年次マスタ(文字)		2016-11-06 00:00:00	2016-11-07 00:00:00	更新
AG	agemaster	年齢マスタ		2016-07-28 00:00:00	2016-07-28 00:00:00	設定済
CY	citymaster	標準地域コードマスタ		2016-08-27 00:00:00	2016-08-27 00:00:00	設定済
JA	sainyumaster	歳入項目マスタ			2016-08-03 17:51:09	アドイン
MA	deathfactormaster	死因マスタ			2016-07-28 16:21:30	アドイン
MB	deseasemaster	傷病マスタ	厚労省 傷病(中)分類 2013年度版準拠		2016-07-29 19:42:14	アドイン
SX	sexmaster	性別マスタ		2017-01-29 09:12:54	2016-04-02 00:00:00	更新

例：標準地域コードマスタ

■エンティティ表

フィールド項目	データ型	ディメンジョン	レベル	インデックス	追加指定	補足説明
標準地域コード	文字型	LCODE		primary		主キー
標準地域名	文字型	NAME	pp	primarynam		主キーに対する名称
都道府県コード	文字型	SCODE				
都道府県	文字型	NAME	a1			
行政区コード	文字型			unique		標準地域コード＋チェックデジット (6桁コード)
地域識別コード	文字型	SCODE				下記参照
地域識別名	文字型	NAME	b1			標準地域の分類
標準地域コード整数	整数			unique		標準地域コードの整数表記
整形コード	文字型			unique	Shaping_pattern:ssssss	住所の文頭から6桁を切り出して表示
要チェック	文字型					マッチングしたとき確認が必要なレコード

■行政区コード、標準地域コード(整数)は変換のためのパターンコード

■整形コードは名寄せのためのキー

■地域識別名 右表

統計表の集計の単位。

ダブルカウントの峻別に使う。

■2桁の都道府県コードも標準地域コードとして主キーコードの一つであることに注意

地域識別名	補足説明
全国	
全国市部	
全国郡部	
県識別2桁	2桁の都道府県コード
県識別子	都道府県
各県市部	
各県郡部	
特別区部	東京23区全体
東京23区	千代田区、港区・・・23区
東京を除く大都市	政令指定都市
大都市区	政令指定都市の区
大都市を除く市	
町及び村	

標準地域コードマスタ 内容

標準地域コード	標準地域名	都道府県コード	都道府県名	行政区コード	標準地域コード(整数)	地域識別名	整形コード
00000	全国				0	全国	
00001	全国市部				1	全国市部	
00002	全国郡部				2	全国郡部	
01	北海道	01	北海道			県識別2桁	
.	.	.	.	.	.	県識別2桁	
13	東京	13	東京都			県識別2桁	
.	.	.	.	.	.	県識別2桁	
47	沖縄	47	沖縄県			県識別2桁	
01000	北海道	01	北海道		1000	県識別子	
01001	北海道市部	01	北海道		1001	各県市部	
01002	北海道郡部	01	北海道		1002	各県郡部	
01100	札幌市	01	北海道	011002	1100	東京を除く大都市	北海道札幌市
01101	中央区	01	北海道		1101	大都市区	北海道中央区
.	.	01	北海道	.	.	.	.
01202	函館市	01	北海道	012025	1202	大都市を除く市	北海道函館市
.	.	01	北海道	.	.	大都市を除く市	.
01303	当別町	01	北海道	013030	1303	町及び村	北海道当別町
.	.	.	.	.	.	.	.
13000	東京都	13	東京都		13000	県識別子	
13001	東京都市部	13	東京都		13001	各県市部	
13002	東京都郡部	13	東京都		13002	各県郡部	
13100	特別区部	13	東京都		13100	特別区部	
13101	千代田区	13	東京都	131016	13101	東京23区	東京都千代田
13102	中央区	13	東京都	131024	13102	東京23区	東京都中央区
13103	港区	13	東京都	131032	13103	東京23区	東京都港区
.	.	13	東京都	.	.	東京23区	.
13201	八王子市	13	東京都	132012	13201	大都市を除く市	東京都八王子
.	.	13	東京都	.	.	大都市を除く市	.
13224	多摩市	13	東京都	132241	13224	大都市を除く市	東京都多摩市
.	.	13	東京都	.	.	大都市を除く市	.
13305	日の出町	13	東京都	133051	13305	町及び村	東京都日の出
.	.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.

日付項目の扱いについて

■ 日付項目のデータ型の指定

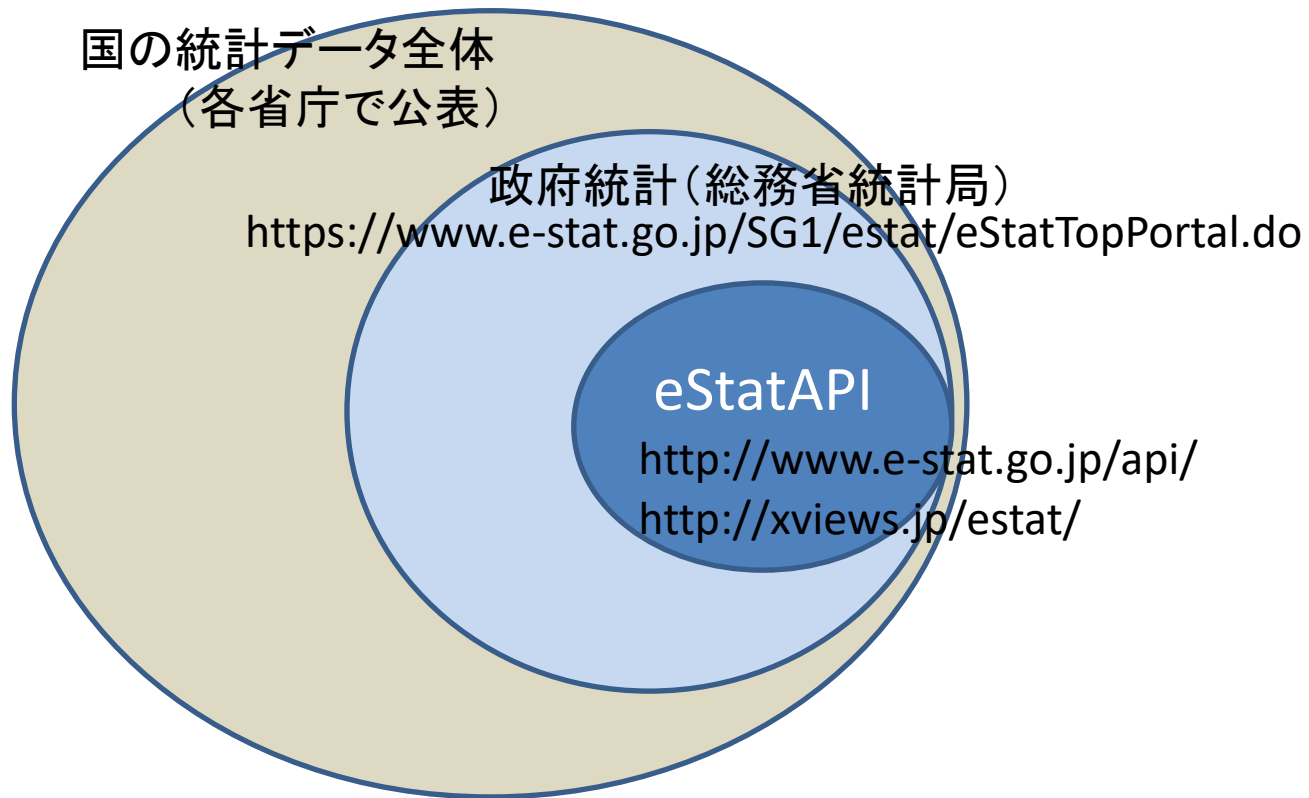
- ・ 日付型 (date, month, quarter, year) で指定した場合は日付として連続的に扱われます。また以下の表示が可能です。
 - 固定期間指定
 - 基準日 (当日) から過去期間指定
 - 基準日 (当日) から将来期間指定
 - 起点日指定
- ・ 不定期な表、または5年毎の表 (日付型のyearを指定すると値のない年も表示される) は文字型で扱います。

■ 日付型の年次マスタ 四半期次マスタ 月次マスタはパターンコードの主キーへの変換テーブルのためだけに存在しリレーションを張る必要はありません。

■ 日付型のディメンジョン指定

- ・ 「POINT」 : 発生時点指定
- ・ 「START」「END」 : 有効期間指定 2項目に対してペアで指定します。いずれもファクトテーブルに直接指定します。

政府統計について



<http://xviews.jp/estat/> eStatAPI機能を使って全統計表を表示

eStatAPIで提供される統計表の インポート

フォーム定義インポート
マッチング定義インポート
政府統計(eStat)

統計表情報 人口・世帯 人口 国勢調査 1/

統計表ID検索

統計表ID	統計表	年月	公開日	小地域属性
0000030001	昭和55年国勢調査	10	2007-10-05	0
0000030002	昭和55年国勢調査	10	2007-10-05	0
0000030003	昭和55年国勢調査 第1次基本集計 全	198010	2007-10-05	0

1. 統計表一覧表から
統計表を選んで

統計表ID: 00003142014 表番号: 00110

表タイトル: 年齢(各歳), 男女別人口, 年齢別割合, 平均年齢及び年齢中位数(総数及び日本人) 全国(市部・郡部)

2. 統計表の内容の確認
・統計値(ファクト)の選択

CODE	NAME	単位	LEVEL	PARENT	RC
0000	総数(年齢)	人	1	undefined	0
0010	0歳	人	1	undefined	1
0020	1歳	人	1	undefined	2
0030	2歳	人	1	undefined	3

3. 名前をつけてインポート

統計表ID検索

和名がなくても可

3. マスタテーブルと紐づけて一致を確認
し set master

CODE	NAME	単位	LEVEL	PARENT	RC
0000	総数(年齢)	人	1	undefined	0
0010	0歳	人	1	undefined	1
0020	1歳	人	1	undefined	2

4. 名前をつけてインポート

フォーム定義インポート

	A	B	C	D	E	F
1	コメント あいいうえお					
2						
3		市区町村	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30歳以上
4		八王子市	34	15	8	5
5		多摩市	25	17	4	4
6		稲城市	15	13	3	5
7		日野市	36	17	7	7
8		町田市	26	14	9	8
9		立川市	21	11	13	4
10		昭島市	12	10	12	2
11	コメント さしすせそ					

■上記のようなEXCEL CSV表に対して 下記のように指定する方式

ヘッダ行 3

削除行 1&2&11 //コメント行 ブランク業を削除

取得列 B-F

ピボット表の行変換展開をする。 ☒

■ヘッダ行 削除行 取得列は正確に記述しなければならない。

複雑な表は不向き

マッチング定義インポート

	A	B	C	D	E	F	G
1	コメント あいいうえお						
2							
3		市区町村	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30歳以上	備考
4		八王子市	34	15	8	5	あ
5		多摩市	25	17	4	4	い
6		稲城市	15	13	3	5	う
7		日野市	36	17	7	7	え
8		町田市	26	14	9	8	お
9		立川市	21	11	13	4	か
10		昭島市	12	10	12	2	き
11	コメント さしすせそ						

■上記のEXCEL、CSV表に対して下記のように指定する方式

ヘッダ行 3
 ディメンジョンの列 B に対して「標準地域コードマスタ」の「標準地域名」を当てると指定
 ピボット(値)の列 C-F に対して「年齢マスタ」の「整形コード」を当てると指定
 取得列 G

■上記の指定によってディメンジョン列が指定のマスタテーブルのパターン列にヒットしたレコードに対し その値をマスタテーブルの主キーにコード変換した上で ピボット列の値 及び 取得列の値を拾って テーブル化します。ピボット列においてもヒットした列の値のみを拾います。

* パターン列はマスタテーブルのprimary primarynam uniqueが対象です。

■複雑な表に対しても指定が簡単であり 多くの表に適用できる。

■マスタテーブルが必要でありかつ一致がとれるようにパターン列が正確である必要があります。

マスタテーブルの作成方法

1. グローバルマスタテーブルを「アドイン」する。
2. EXCEL等で作成し「フォーム定義インポート」でこれをインポートする。
3. 「フォーム定義インポート」完了後 テーブル定義表画面において
マスタテーブル化すべき項目を選び「CREATE_MATSTR&LINK」を実行する。

テーブル定義画面 説明参照

4. eStatAPIによるインポートにおいて「CREATE_MASTER」を実行する。

統計表画面 説明参照

インポート履歴と追加インポート

テーブル定義画面

テーブル情報

テーブル名称	ti0008count	タイトル(和名)	男女別人口	W権限	協力会員
別名(NS)?	B1	テーブル番号	63	単位	
調査(出典)	国勢調査	作成者	花谷修一	更新日	2017/04/22
記事					本テーブルの表示
ソース					合計集計
					平均値集計

編集 記事登録 リレーション定義 **インポート履歴&追加** 削除

スケジュール

一括登録 参照... ファイルが選択されていません。 閉じる

テーブル:男女別人口[ti0008count]		データベース:xxview_1297529000273502_0121	
処理	ワークシート	実行結果/実行予定	
url http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_csvDownload_&fileId=000007591405&releaseCount=2	[worksheetNo] [0] 調査年: 2015	success 実施者 花谷修一 実施日 2017-04-22 11:37:49	確認 削除
url http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_csvDownload_&fileId=0(file	[worksheetNo] 0 excelの場合 調査年 調査年		追加 予約

- 「フィールド定義インポート」及び「マッチング定義インポート」によってインポートされたEXCEL、CSV表はテーブル定義画面の「インポート履歴 & 追加」ボタンによって過去のインポートのパラメータの内容と成功／失敗の状態が履歴として表示される。
- 同時にこの履歴の情報をもとにパラメータが引き継がれ 新たにインポートしてデータを追加する場合は追加データのファイル(url)及びワークシートの値のみの情報の追加で追加インポートが実行できる。
- 予約登録して 指定の日時に実行できるようにする予定である。(未)

テーブル内容の修正・削除 及び 結合状態の確認

- テーブルの属性の変更 削除 及び フィールド項目の属性の追加・変更・削除は すべて 下記 テーブル定義表の各ボタンから実行できる。
ただし 削除については関連する制御テーブルの内容がすべて削除されるので注意が必要である。
テーブル定義画面 説明参照

■テーブル内容の修正 「編集」ボタン

テーブルのレコードの追加・更新・削除ができる。
また 簡単なSQLを実行できる。
(アクセス権要)

テーブル情報									
テーブル名称	ti0008count	タイトル(和名)	男女別人口	W権限	協力会員				
別名(NS)?	B1	テーブル番号	63	単位					
調査(出典)	国勢調査	作成者	花谷修一	更新日	2017/04/22				
記事					本テーブルの表示				
ソース					合計集計				
				平均値集計					
					編集				
					記事登録				
					リレーション定義				
					インポート履歴&追加[F]				
					削除				

フィールド(項目)情報									
項番?	項目名称	項目表示名?	データ型?	被アクセス権?	ディメンジョン?	レベル?	インデックス?	その他?	削除
1	地域コード	地域コード	varchar(255)	公開	none		none		×
2	調査年	調査年	varchar(255)	公開	none		none		×
3	人口	人口	double	公開	none		none		×
4	性別	性別	varchar(255)	公開	none		none		×
5	import_id	import_id	int	公開	none		none		×

項目更新

フィールド追加

■テーブル間の結合状態の確認

ファクトテーブルであれば「リレーション」ボタンが表示され、このボタンによってリレーション関係が表示され必要であれば変更・削除が可能である。

- ファクトテーブルを最初に「フォーム定義インポート」でインポートしたとき「ファクトテーブル化」しなければならない。このとき「ファクトテーブル化」ボタンが「リレーション」ボタンに変わる。

- マスタテーブルをファクトテーブル化することによって指標テーブルとなる。

集計画面・一覧画面の作成 ホームページへの登録手順

1. マスタテーブルの準備

必要に応じて

2. データのインポート

3. テーブル定義(エンティティ表)の確認

大抵の場合は自動設定されるため設定する必要はありませんが確認は必要です。

4. 指標計算定義

資料:「計算定義」を参照

テーブル定義画面からそのテーブルの集計値を「合計」又は「平均」またはカウントテーブルの「カウント」で インポートの直後だけ指標計算定義画面を開くことなく直接「集計画面」を開くことができます。

——指標計算定義のショートカット——

5. 集計画面・一覧画面の調整

ユーザに見せたい画面設定にします。

6. ページ登録

同時にホームページに登録されます。